

令和3年度 学校評価書 (自己評価と学校関係者評価の結果と考察)

東近江市立能登川北小学校

令和 3年 8月 27日作成

＜本年度の重点目標＞

- 学ぶ力を高める 進んで学び、よく考える子の育成
- 豊かな人間性の涵養 心やさしく、助け合う子の育成
- 健やかな心身の育成 粘り強く、鍛える子の育成
- 信頼される学校づくり 地域と共に歩む学校の創造

＜評価基準＞

A＝優れている(優れている状況にある) ・ 数値基準90%以上)
 B＝良い(良い状況にある) ・ 数値基準80%以上) ※B評価を細分化し、B+、B-を追加している。
 C＝おおむね満足(課題はあるがおおむね満足できる状況にある) ・ 数値基準70%以上)
 D＝要改善(課題が多く速やかな改善が必要な状況にある) ・ 数値基準70%未満)

＜自己評価の総評＞

総合評価【B】

○「少人数で、子どもたちが落ち着いていて、きちんと教材研究に向き合える」というこの学校の強みを生かし、指導の幅を広げられるよう、これからも自ら学び続ける姿勢を大切にしていきたい。放課後の限られた時間ではあるが、先輩先生方の様々な実践を教えていただけて自身の指導に生かしたい。

○基本的な力を確固たるものにして、その上を目指す活動を取り入れたい。

○行事や活動に最後まで取り組んでいると思うが、自分自身がステップアップできているかという視点で振り返らせた。

○ホームページや通信で、保護者や地域への発信はなされている。もっと気軽に学校に出入りしてもらえればと思う。

○年間を通しての見直しや6年間を通してのキャリアの見える化を行う必要がある。自分が見直しを持ち、系統立てた学習を意識して取り組んでいきたい。

○例えば算数科の系統表であったり、SDGSの具体表現物であったり、タブレットの実践例であったり、見える化を図ることによってその活動が活性化されるであろうものがいくつか考えられる。そういった提示物を作成するためには、時間的余裕をもっていなければならぬと思う。「全てを一度に」ということは難しいので、優先順位を決めて、順次取り組みたい。

○特に「学習規律、学習集団づくり」に大きな課題が残っている。「友達や先生の話が聞けない」ということは、①大切なことを聞き漏らし、次の行動の弊害になるだけでなく、②人権の観点から考えても、相手のことを大切にしていないということにつながってしまう。「話をしっかりと聞きましょう」という一辺倒の指導だけでなく、「話を聞く必要感」がもてるように、2学期以降工夫を凝らしたい。

○一学期に行った「くりみっこ運動発表会」を通して全校の子どものよりよい人間関係が醸成された。そこには、教師側の子どもたちへの明確な立ち位置「子どもにも考えさせ、判断するのを教師がサポートする」が大変大きかった。しかしながら、学級を見てみると、特に話し合いの場面では子どもに折り合いをつけさせる指導にはばつぎがある。子どもにどの部分を考えさせ、どの部分を指導するか、指導者の重要なポイントであると考え。

○思いやりのある行動、自分で考えて行ったよい行動を見つけたときは、すぐにほめる。また、自分勝手な行動が見られたときは、ひり返れるような声掛けをしていく。

○「わかる・できる」の授業を意識して、少人数だからこまめに細やかに子どもたちと学びが深められた。ただ、ペア学習や全体交流は、自分たちの意見や考えを伝えるということではしているが、どこまで深まったかという点では課題が残るよう感じた。また、友達や先生の話が聞けないという状況は、自分たちの意見や考えを伝えるということではしているが、どこまで深まったかという点では課題が残るよう感じた。また、友達や先生の話が聞けないという状況は、自分たちの意見や考えを伝えるということではしているが、どこまで深まったかという点では課題が残るよう感じた。

○全校男女ともに仲が良く、困っている人がいると声をかけるなど優しい姿がたくさんあった。下学年に対して、しゃがんで視線を合わせるなど一人ひとりをとても大切に接しているのがよくわかる。全校で動く時などは、5年生としてリーダーとなるように責任をもって行動できている。しかし、5年生という集団だけに焦点を合わせるなど、なかなかみんなのためにという点で率先して動くのが難しい時もある。例えば、配りもめであったり、学級掃除の雑巾担当などは人任せにしていることも感じられる。担当だから、役割だからやるのではなく、どのような時も率先して人のために汗を流せる人になるように2学期以降取り組んでいきたい。

項	評価項目	成果目標・取組目標	自己評価	自校の改善方策
(1) 学校経営	① 学校目標	・学校だより、ホームページ、関係団体会議等で積極的に発信する。 ・学校やPTAからの北小の合言葉「くりみっこ」について知っている保護者を80%以上にする。	B+	①生活の中で、子どもたちの方から「くりみっこ」の言葉がよく出てくるようになったと思われる。(特に、運動発表会での「苦労しよう汗を流そう」「みんなで築こう北小の伝統」)保護者の認知度もアンケートを見てみると高く、くりみっこ賞を通して、保護者にも伝わっていると思う。 ②くりみっこ賞の推薦を通して、教師が「くりみっこ」を意識するようになり、結果、児童や保護者にも認知されるようになったが、取り組んだ学習や取組が「くりみっこ」分類されることで、より効果があると思われる。 ③一気に全てを整えることは無理があるので、まずは校内研究で扱っている算数科について、系統表のようなものが作れるとよいと思う。見える化を図ることで、縦のつながりを意識した指導につながる。 ④上学年との交流を仕組むことで、アドバイスをもたえたりし、たてわり関りの幅が広がる。 ⑤たてわり活動の充実が本校の実践の柱。素晴らしいと思う。「上学年が下学年と一緒に○○する」といった上学年発信のものが中心になっているが、下学年発とか中学年発といった下の学年からの発信によるものも実現していくといきたいと思う。 ⑥学年ごとのカリキュラムはしっかりと立っているが、6年間を見通した縦軸を見える化できるとういと思う。(例えば、1年の朝顔・2年の野菜～6年のハウスまでの縦軸。各実践の意図と狙い、つながりが現状は口伝になっているが、見える化する、縦のつながりも意識できる。) ⑦職員室前のカリキュラムの掲示の真の狙いは、職員が日常的に意識することだと思う。昨年の物が裏面になっていて、非常に使いづらい。教材室側の昨年のも、会議室側に今年のおき、比較しながら書き込みができるようになるとうい。1枚にすべてを掲載する形の方がいい。昨年の年間カリキュラムを見える化するようにしていきたい。
	② 社会に出て、自らよりよく生きていける力の育成	・小学校6年間を見通したカリキュラムを構築する。 ・学校を通して、たてわり活動の充実を図る。	B	①6年間を見通したカリキュラムについては、年間計画を縦に見直す必要がある。特に総合的な学習の時間に関しては、子ども達の発達段階に合わせたカリキュラムに即して見直しをする。 ②たてわり活動のよさが、子どもたちの様子から感じられた。上の学年を見て学ぶ風土ができてきたのを感じる。6年間てしっかりと力を積み上げるカリキュラムを検討する機会をもつ。 ③まずは算数から、6年間の系統性を整理していく。総合的な学習も整理をしたのでカリキュラムの立てのつながりを意識した指導を行っていききたい。
(2) 学習指導	③ 学力向上の取組	・児童一人一人が考えをもち、伝え合い学び合える授業の工夫・改善に努め、授業が分かるという児童を90%以上にする。 ・1年20分、2年30分、3年40分、4年50分、5年60分、6年70分の家庭学習の指導を続け、家庭学習の習慣が身に付いたと答える保護者の割合を80%以上にする。 ・子どもが主体的に学ぶ姿勢を大切に、ノートつくりやめあてを意識した振り返りを通して、子どもたち自身が学びを実感できるような授業づくりに取り組む。	C	③教え込む形の授業になりがちで、子どもたち主体の授業構成ができなかった。話せる子が多いので、今後は授業改善を行っていききたい。また、朝の学習の時間は、漢字計算学習が中心で行えた。プリント形式で行ったため、量も適当であったと思う。 ④教師が説明して分かった！ではなく、児童に話す機会(時間)を保障し、子どもが活躍する授業を心がけて、子どもたちの定着や課題を把握して、授業中のなるほど！できた！分かった！を目指したい。また、分かる授業はもちろん大切にしていききたいが、疑問や分からないことをみんなて解決していきけるような授業でありたい。 ⑤子どもたちの学力は高い方だが、全員が家庭学習で70分学習できているとは言えない。学力の高い子はさらに高めていけるよう、「70分以上になるように自主学習をする」といったような課題の出し方に変えていきたい。 ⑥単元の最後は初めに評価をするのではなく、まずリテラシー「学習の成立」として必要な「前提となる知識や経験など」の状態を知り、学習の計画を立てる。 ⑦自主学習の取組で、基礎分野・応用分野・調べ学習分野・創作分野・読書などのアプローチの仕方を試してみる。 ⑧子どもたちの発達段階や実態に合わせた、授業づくりを行った。1学期は校内研究があったので、具体物の操作の大切さや交流の仕方を改めて考える機会となった。2学期に向けて、どのような力をつけていくべきか考え、子どもたちに無理のない範囲で、「わかった」「できた」が生まれる授業づくりに取り組んでいきたい。 ⑨説明は一時に一事を心掛ける。子どもたちが活動する時間を確保し、自力解決の時間をじっくり取ることで、子どもたち一人一人がしっかりと自分の考えを持つことができる。 ⑩家庭学習で繰り返し復習をすることで、授業で新しく学習した内容をしっかりと定着させることが大切である。 ⑪ここに学習や親子読書など、家庭で子どもたちと一緒にできる家庭学習も定期的に取り入れることも家庭学習の意欲付けには有効であると思う。 ⑫ペア学習、グループ学習など交流を通しての学びを意図的に仕組むことはできた。交流がより意味あるものとなるよう、考えていきたい。 ⑬家庭学習の推進について先進校の実践を集め、できることから学校全体の取り組みとして進められるとういと思う。現状は、各学年ごとの取り組みになっている。 ⑭「自力解決」～「交流」～「再構築」を45分の授業で全て行うことは難しい。学年や単元にもよるが、「自力解決は家庭学習で、授業は交流か」という構図を授業パターンの一つとして定着させられると、学び合い学習が充実すると思われる。 ⑮授業の中で、同じ説明をする状況を意図的に作らないこと(子どもの発表)、一人でも多くの児童が、興味を抱くような展開になるように工夫すること、以上2つから取り組んでみるとよいのではないかと考える。 ⑯毎時間毎時間の授業で何を意識して取り組むかが大切。学び合うためには子どもに考えさせる場面と伝える場面を積極的に仕組む必要がある。 ⑰自己の学びの定着には、振り返りが大切。 ⑱家庭学習の内容を検討する機会をもつ ex.授業と関連付けた内容(予習的な内容) ⑲家庭学習について目標とする時間までできていなかった。自主学習の進め方の難しさがあると感じた。もちろん、宿題で出せば子どもたちはやっているが、宿題として出すのではなく、自ら進んで取り組めるようにするにはどうしたらよいか考えた。 ⑳「め・じ・と・ま・ふ」を基本にした授業づくりを、どの学年も、どの教科でも取り入れる意識を定着させる。(指導改善)
	④ 学習規律・学習集団づくり	・全学年一貫した指導「学びのスタンダード」を徹底する。(学習準備、ルンバ、学習のあいさつ、声ののび、話し方、聞き方、鉛筆の持ち方等) ・授業中、教師や友達の話をしっかり聞く児童の割合を90%以上にする。	C	③説明は一時に一事を心掛ける。子どもたちが活動する時間を確保し、自力解決の時間をじっくり取ることで、子どもたち一人一人がしっかりと自分の考えを持つことができる。 ④家庭学習で繰り返し復習をすることで、授業で新しく学習した内容をしっかりと定着させることが大切である。 ⑤ここに学習や親子読書など、家庭で子どもたちと一緒にできる家庭学習も定期的に取り入れることも家庭学習の意欲付けには有効であると思う。 ⑥ペア学習、グループ学習など交流を通しての学びを意図的に仕組むことはできた。交流がより意味あるものとなるよう、考えていきたい。 ⑦家庭学習の推進について先進校の実践を集め、できることから学校全体の取り組みとして進められるとういと思う。現状は、各学年ごとの取り組みになっている。 ⑧「自力解決」～「交流」～「再構築」を45分の授業で全て行うことは難しい。学年や単元にもよるが、「自力解決は家庭学習で、授業は交流か」という構図を授業パターンの一つとして定着させられると、学び合い学習が充実すると思われる。 ⑨授業の中で、同じ説明をする状況を意図的に作らないこと(子どもの発表)、一人でも多くの児童が、興味を抱くような展開になるように工夫すること、以上2つから取り組んでみるとよいのではないかと考える。 ⑩毎時間毎時間の授業で何を意識して取り組むかが大切。学び合うためには子どもに考えさせる場面と伝える場面を積極的に仕組む必要がある。 ⑪自己の学びの定着には、振り返りが大切。 ⑫家庭学習の内容を検討する機会をもつ ex.授業と関連付けた内容(予習的な内容) ⑬家庭学習について目標とする時間までできていなかった。自主学習の進め方の難しさがあると感じた。もちろん、宿題で出せば子どもたちはやっているが、宿題として出すのではなく、自ら進んで取り組めるようにするにはどうしたらよいか考えた。 ⑭「め・じ・と・ま・ふ」を基本にした授業づくりを、どの学年も、どの教科でも取り入れる意識を定着させる。(指導改善)
(3) 学校図書利用	⑤ 学校図書館の活用・読書習慣の定着	朝の読書、読み聞かせ、図書室利用指導等により、読書が好きと答える児童の割合を80%以上にする。 ・図書だよりなどにより親子読書と呼びかける。 ・すきまの時間に読書ができるように児童の身近に(図書バッグなど)読書する本を常備させる。	B	④児童の持ち物が派手になってきている。「くりみっこくらし」を再度きちんと各クラスで指導する必要がある。(2学期スタートで全校共通して指導) ⑤5年生に関しては、ゴールを定めたと思う。各学期1冊終了を目標に自分で取り組めるようにしたい。60ページを見直しをもって自分で自らできるように計画、実施すること、そこを目標とするとういのが、どのようにまとめるとういのが子どもたちからお手本となるものを紹介していきたい。 ⑥毎月家庭での読書を進める「うち読」を行い、家庭での読書週間隔離につなげていく。きっかけづくりとして、宿題での読書も考えていく。

	<p>⑥ 英語教育(外国語活動)の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が外国人講師等との連携を図り、コミュニケーション能力の育成をめざした授業を行う。 ・「英語の授業が好き」「英語の授業が楽しい」という児童を90%以上にする。 	B	<p>⑤図書館利用をさらに積極的に進め、語彙を増やしたり、学習の中で情報を活用できる能力を養いたい。そのために、必要ことを川嶋先生に伝え英語に傾きやすい教材を連携を進めたい。</p> <p>⑥週に1回必ず本の交換に行くなど、本と触れ合う時間を大切にしている。学校では子どもたちは本を読む習慣が少しづつできてきているように感じる。しかし、家ではほとんど読んでいない子が多いため家で読む習慣を今後大切にしたい。そのために、親子読書はもちろんだが、親子で読んだり、子どもが読んだ本を要約して親に伝える課題などを出したい。また、新聞記事を毎週読むなどいろいろな角度から本に親しめるようにしたい。</p> <p>⑦学期1回、必ず正しい鉛筆の持ち方を入れたい。</p> <p>⑧出し抜けて発せられた児童の言葉には応じない姿勢を貫き、必ず最後まで話し切ってから対応する。これは、児童が発言している場合にも同様に対処。</p> <p>⑨話し方、聞き方、聞き方名人の指導の徹底を行う。全学年一貫した指導は、徹底されてはいない気がする。児童の成長によって合い言葉や声かけも異なってくると思うが、段階的な指導の方法を明確にしていく必要があると思う。</p> <p>⑩全学年統一した指導は徹底されていないように感じる。(特に、休み時間の学習準備、朝の会、授業開始時のベル着)</p> <p>⑪すきまの時間に静かに読書している子は多い。次の段階として、読書の質を上げることに課題。(ex.1冊はお話の本を借りる、授業中のすきま読書は漫画など)</p> <p>⑫目指せ読書100冊に達して取り組んでいる。特に司書の先生が来られる日は、おめめの本や自分の好きなジャンルの本を選んでもらって、夢中で読む姿が見られる。また、絵本から、物語や小説へ移行する子どもも多く見られ、自分の好きなジャンルがわかってきたようだ。本にいつも触れられるよう、また調べ学習など、今後も取り組ませていきたい。</p> <p>⑬朝のスピーチの内容に読書の感想を加え、他の児童に意欲づけにつなげる。</p> <p>⑭読書好きの子が多く、隙間時間を見つけては本に親しむことができていた。しかし、家庭での読書は定着していない。家庭学習にも読書をして取り組むよう、宿題の出し方を工夫したい。</p> <p>⑮週に1回以上図書室を利用し、子どもたちが本に触れる機会をたくさん作る必要がある。学習でも学校司書を積極的に利用し、役立てていきたい。</p> <p>⑯学校では読書を通して家庭での読書習慣が身に付いていない、借りる本がシリーズもののみといった、読書習慣や読書傾向に課題がある。読書傾向の分析や、読書の質を高くする実践への取り組みを進めるとともに、学校での取り組みの情報発信も大切だと思う。自校をこめてあるが、学校司書に頼る(お願いする)だけでなく、連携して授業を担当がつくっていくことが大切だと思う。</p> <p>⑰学習のポイントとなる言葉を引き出すための話し合い活動を必ず仕組むようにし、教師は司役に徹する。</p> <p>⑱話し合いのテーマを小黒板などに掲げ、すぐに話し合いに入れるようにし、クラスの全員が発言するチャンスを与える。</p> <p>⑲朝の会、帰りの会も指導の時間だという意識をもち、「聴く力・話す力」をコツコツ伸ばす。</p>
	<p>⑦ コミュニケーション能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動や朝・帰りの会で児童相互に伝え合う場面を設定し、話す力・聴く力の向上に努める。 ・授業中、積極的に自分の考えを話している児童の割合を80%以上にする。 	C	<p>⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>
<p>(3) 道徳教育</p>	<p>⑧ 道徳教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考え、議論する道徳科の授業を充実し、年間1回以上保護者に道徳の授業を公開する。 	B-	<p>⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>
<p>(4) 特別活動</p>	<p>⑩ 豊かな心情を養う体験活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や縦割り活動の精選と質の向上を図る。 ・月1回以上学級会を行い、自分の思いを伝え、よさを生かしていけるようにする。 	C	<p>⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>
<p>(5) 人権教育</p>	<p>⑬ 人権尊重の精神と実践的態度の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき指導を進め、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。(いじめ防止) ・友達のをよさを認め合う場を設定し、掲示するなど可視化を図る。(「今日のキラリ」「ほめ言葉ジャーナル」などの取組、ノートの書き方賞の掲示など) ・教室に掲示する児童の作品には、指導者のコメントを入れ、自己肯定感の高揚を図る。 	B	<p>⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>
<p>(6) 環境教育</p>	<p>⑮ 共生を目指す環境教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDG'sの17項目の視点を意識した活動を仕組む。 	D	<p>⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>
<p>(7) 国際理解教育</p>	<p>⑯ 多文化社会に生きる国際理解教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTによる、母国の文化を紹介しながら、文化の違いや多様性を理解させる。 	D	<p>⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>
<p>(8) 生徒指導</p>	<p>⑰ いじめを許さない集団づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立や豊かな人間関係を築く学級経営を進める。 ・「いじめはいけな。ゆるさない。」という学級風土を築く。 ・いじめをしない、させない、見過ごさない行動をとる児童の割合を90%以上にする。 	B+	<p>⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>

		⑩ 学校不応児児童生徒へのきめ細かな対応	・教育相談週間「10分間カウンセリング」や児童・保護者アンケートから児童の心身の状況を把握し、意図的・計画的に教育相談活動を実施する。	B+	⑩日ごろから、些細な言動に今日職員全体で気を配る必要がある。エスカレートする前に初期の段階で対応できる予防的な生徒指導体制を築いていきたい。 ⑪子どもたち一人ひとりには目が届きやすいと思うが、家庭環境や背景なども含めて、しっかりと一人ひとりを見つめていく意識を高める。 ⑫「何か変」と直感で感じた時は、必ず子どもたちに「どうしたの」と聞くようにしている。また、どの学年の子どもにも、すれ違ったときは、「おはよう」「元気か」と必ず声をかけるようにすることも大切だと感じた。小規模校だからこそ、いろんな先生が声掛けをすることで何かわかることも多々あると感じた。 ⑬教育相談室をつくり、期間を設けて開放していきたい。 ⑭教育相談週間に定期的に実施することで子ども理解・問題の早期発見に努めていきたい。 ⑮気になる児童がいる際には、教育相談週間だけにとらわれず、日頃から様々な視点（観察する人を担任以外に変えたり、見る時間帯を変えたり）で子どもを観察するようにすればよいと考える。
(9) 進路指導		⑩⑨ キャリア教育の充実	・学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。（キャリアパスポートの実施）	C	⑯キャリア教育を意識し、各学年ごとに将来に希望がもてるような人（ゲストチャート）と出会いをつくっていく。 ⑰「キャリア教育の視点」を常日頃からもっていることが重要だと思う。学期の最後にキャリアパスポートへの記入を行うだけではなく、日頃行っている実践の中に、キャリア教育の視点が含まれていないかを自分自身や子どもたちへ問うことが重要だと考える ⑱自分に自信がもてずにマイナス発言をしてしまう子がいるので、日々の取組の中で自尊感情を高めていきたい。 ⑲高校の夢となると、まだまだ悩む学年だからこそ、「自分の好き」をたくさん集めていきたい。その好きの中から、中学、高校などに進学した時に何か一つ極めてほしいと思うので、今はたくさん好きが集められるようにする。
(10) 特別支援教育		⑩⑩ 特別支援教育の充実	・全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実践する。 ・必要に応じて支援体制づくりを行う。 ・学期1回以上の特支推進委員会を実施する。	B-	⑲気になる児童へのアドバイスがもたらえるように、発達支援センターに相談をかける。 ⑲具体的な特別支援の取組が学べる機会をつくる。 ⑲支援体制は組織としてできている。支援計画のない子でもユニバーサルな視点で支援を行える支援体制を構築していきたい。 ⑲支援の必要な児童に関して、保護者と連絡を密にとり、連携を図ることが大切である。 ⑲特支CNを中心に、外部との連携など、スピーディーに行えるように意識する。 ⑲児童の状況や保護者の思いを、個別相談や家庭訪問を通してしっかりと確認し、入級や進路に向けての動きを学校全体として把握し、手続きをふんでいく。（引継ぎも確実に） ⑲通常級が特別支援への選択、意思決定などは年度をまたがないように見通しをもってやるのが大切だと考える。年度をまたぐと、新任担任と保護者が一から信頼関係を築くまでに時間がかかるので、時間が空くことで保護者の気持ちも揺れ動き、またリセットされる。 ⑲1年生の時に特別支援学級を新設で希望したが、新設されなかったから卒業まで通常級で確定するのではなく、毎年保護者に確認を取り希望を出すと同時に保護者と担任、コーディネーターなど連携を密にししていく必要があると感じた。
(11) 保健安全教育		⑩⑪ 安全教育の充実と安全管理体制の整備	・月1回防犯パサーの点検を実施する。 ・児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハットとした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高揚させる。	B-	⑲3年生がトイレへ行くときに廊下を頻々と走っていくのが目立つ。なぜ、走ってはいけないのかその都度考えさせて、子どもたちが危険を実感して考える機会が必要だと思う。 ⑲まず、廊下を走っている自覚がもてるようにする。そのために、教師が見た廊下歩行の様子を、常にありのまま児童に伝える。 ⑲1年に1回、寝る時間や起きる時間のアンケートをして、実態把握をする。 ⑲朝ごはんを食べてきている児童はほとんどだが高学年になると早寝に課題がある。 ⑲5年生に関しては平均で22:30、遅いと23時に降も普通に起きている。小学生では遅すぎるからこそ、通信や子どもたちに伝えていきたい。
		⑩⑫ 基本的な生活習慣の確立	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。	B	
(12) 研究・研修		⑩⑭ 教職員の資質・指導力の向上	・児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。（確かな学力・主体的に学ぶ力の育成） ・常に学び続ける教師をめざす。（授業改善に向けた校内研究6回実施） ・研究授業で学んだことを普段の授業に生かす。（日ごろの授業改善）	B	⑲少人数ならではの良さを生かして、みんなが分かる！できた！たのしい！となれるよう教師の力量を高めていきたい。 ⑲学級調査研修で掲げた国語科と算数科の授業の改善に取り組み。 ⑲校内研、学力向上を効果的に利用し、一人一人の教員が授業スキルを上げていく。 ⑲ICT研修の充実を図る。教師のスキルアップ、オンライン授業に備えた準備、タブレットの持ち帰りに向けて、子どもたちと学校で慣れておく必要がある。 ⑲「教師は授業で勝負！」わくわくする授業を仕組む ⑲教員自身の意識も気になるところである。研修を行い、自分事として考えられる意識を育てる ⑲学校経営では、教職員間の合意形成がとても大切だと思う。一人一人の意見を述べる場を大切にしたい。
		⑩⑮ 教職員の危機意識の高揚	・不祥事防止研修、人権教育研修、危機管理研修を計画的に実施する。 ・危機管理マニュアルの周知。 ・シェイクアウト訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。	B	
(13) 地域との連携		⑩⑯ 保護者・地域との連携	・保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 ・全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。 ・ふるさと「くりみ」が好きと答える児童の割合を90%以上にする。	B	⑲学級通信を定期的に発行し、保護者に学校での様子をこまめに伝えるようにする。 ⑲気になる児童の保護者には、連携をとり、定期的に教育相談の誘いを投げかけてみる。 ⑲生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域の方を積極的にゲストティーチャーとして招く。そのための相談を地域コーディネーターにかける。 ⑲また、ボランティアを頼み、地域の方との出会いを増やす。 ⑲気になる子について、保護者に学校での様子を伝えるとともに、お家での様子や困り感も聞き取ることで、保護者の不安感を少しでも取り除くことができると考える。
		⑩⑰ ホームページによる情報発信	・ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信源とする。	A	
(14) 施設・設備		⑩⑱ 施設・整備の安全確保	・月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の励行。	B+	⑲安全点検による修繕が今年度は確実にすすめることができているが、老朽化が進む校舎の中で児童の安全を最優先にした管理を引き続きする必要がある。 ⑲（病院に行くレベルの）子どもたちのけがの発生場所や発生状況を共有したい。7月に2年生の児童が図工室前で転倒し顔を強打した案件は、大けがに至らなかったものの失明の危険もあった。例えば裁判になったとして学校の過失を問われそうな危機がたくさん潜んでいることを実感した。形式的な安全点検も大事ではあるが、実際に校内で起きたけがや事故（ヒヤリハット）の事例検討や共通理解もしておく必要があると思う。けが発生場所校内マップを作って昇降口に貼り、児童に見える化しておくのも一案だと思う。 ⑲危険箇所、破損など、見過ごされている部分があるので、安全点検時にしっかりと見ていく意識を高める。
		⑩⑲ 学習環境の整備	・学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。	B+	
(15) その他		⑩⑳ 幼児児童生徒の満足度	・楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。	B+	⑲保護者は「子どもは楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方が90%以上で回答してくださっているが、子どもは「学校が楽しい」と回答している子が大半ではあるが、そうではない子もいる。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう掛けたい。
		⑩㉑ 保護者の満足度	・我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。	B+	